



2000年1月1日 Vol. 13

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター 事務局通信

「システム=仕組みの創造」

いよいよ2000年。パラダイム（枠組み）の転換と騒いでみても、かけ声だけで実体を創造できなければ何も改革されない。

仙台でのNPOフォーラム'99東北会議のセミナーで出会った葛巻町のお母さん達による「森のそば屋」、遠野の新規参入者が仕掛けた「つくもうしクラブ」、鷹巣町のワーキンググループ、などなど、あっと驚く仕組みを生き生きと実現している人達の存在を知った。こうした小さな活動が土筆のようにわき起こったら地域も変わるだろう。市民による新しい仕組みの創造が、使い古した20世紀型の社会システムを変えることが出来ると確信した。

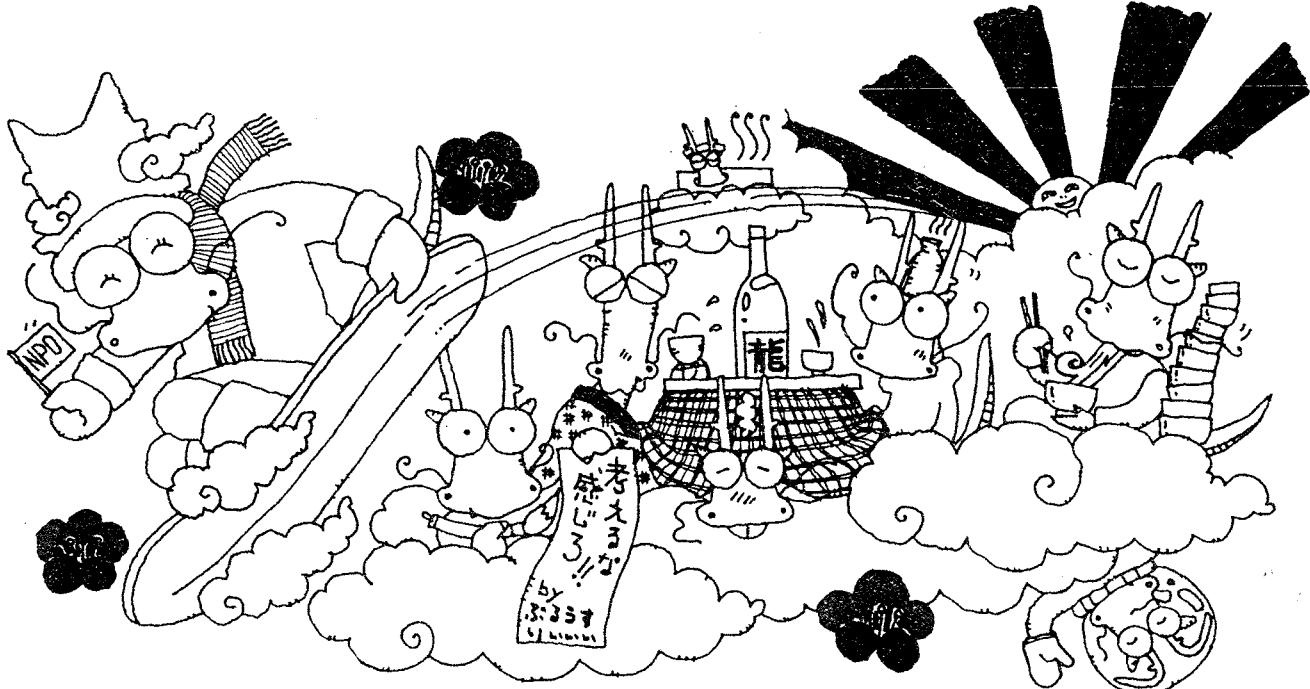
おおかたの行政が、市民のこうした創造への取り組みを手助け出来るようになるためには、もう少し時間がかかりそうだ。それまでは、民

間の中間支援システムが頑張らなければなるまい。中間支援システムもかけ声だけでは、市民の役には立たないし、行政を変えることも出来ない。システム創造の支援能力をもっと高めてきたいと感じるこの頃である。

せんだい・みやぎNPOセンター 理事
山田 晴義

内容

'99を振り返って、2000年の事業について
デラウェア研修報告
NPO法施行1周年記念シンポジウム
SSCで働いた半年
宮城県の雇用対策資金によるNPOへの業務委託
CCFサロン・センダードサロン報告
物品の提供・寄贈について
私のNPO体験、東北リレートーク
活動報告、他



せんだい・みやぎNPOセンターの '99年を振り返って

■NPO元年から、「一人一業」の時代へ

99年はまさに「NPO元年」と呼ぶにふさわしい年になりました。NPO法の施行後1年の間に、1000を上回るNPO法人が全国で誕生しました。9月に仙台で開催された「NPOフォーラム'99東北会議」も、こうした盛り上がりを象徴するような記念すべきイベントとなりました。また、6月にオープンした市民活動サポートセンターも、文字通り市民活動の拠点として、多くの市民から認知されつつあります。

もう少し長期的な視点から、NPOの意義とか役割をじっくり見極めることも大切になっているように思われます。世紀を越えて続く可能性が強い景気の低迷の中で、「働くこと」に対する意識や価値の変化が、少しづつ進んでいるようです。企業のリストラとそれに伴う失業率の上昇、少子高齢化の流れ、情報通信技術の発展などのさまざまな要因が複合して、私たちに改めて「働く価値」の再考を促しています。

21世紀は「一人一業」の時代である、と私は考えています。人生80年を「生涯現役」として生きたいという意識は、日本の多くの人々に共通した

認識になりつつあります。働くことが即、特定の会社や組織に長く勤めることを意味する時代は過ぎようとしています。

こうした意識の変化が、21世紀の日本の社会を動かす原動力になると私は思います。既存の



会社や組織とは一定の距離を保ちつつ、人生のどこかで自らの「事業」を起こしたり、そこに参加することを通して、社会に貢献し自分も充実してゆく。そこでは、事業を急成長させたり、そこから膨大な利益を稼ぎ出すことよりも、ほどほどの収益の確保と事業を通した人的ネットワークの拡大が、生きる糧を与えていく。そんな働きかたや生きかたが、日本の各地に広がりつつあります。

しかし、「一人一業」の時代を生き抜いていくためには、そ

代表理事 大滝 精一

れにふさわしい準備や経験の基礎が必要です。少なくとも(1)自分の適性が何かをしっかりと見極め、(2)その仕事に必要な技術やスキルを磨き、(3)チームや組織で仕事をしていくための人間関係を作っていくことが、今まで以上に求められます。人生のさまざまな段階で、こうした教育や訓練が受けられることが重要になります。

新しい仕事のスタイルは、既にいろんなところで芽生えつつあります。たとえば、SOHO（スマールオフィス・ホームオフィス）の概念は、特に主婦を始めとする多くの女性にたいして、これまでにない仕事の可能性を開こうとしています。身近で生じる問題の解決を事業化していくこうとするコミュニティ・ビジネスも、ここ2、3年の間に各地で産声を上げています。

せんだい・みやぎNPOセンターの重要な仕事のひとつとして、こうした方面での支援を強化することがあげられます。21世紀をにらんで、企業や行政ともタイアップしながら、地域に新しい仕事を創出し、生きがいの場をふやしていくことが大切だと考えます。

■日本の伝統や歴史の中でとらえたい「日本のNPO」

環境保全米ネットワークの事務局兼機関誌発行人を成り行きから引き受けた2年が過ぎた。事務局の仕事は目に見えない雑用の積み重ねだとつくづく思う。事務所に出るのは週一回なのだが、機関誌の編集は家でするし、何か集まりを企画する度に家が事務所になってしまう、というわけで、せんだい・みやぎNPOセンターの代表理事を引き受けながら、今年もそのようには働けなかった。能力の問題ももちろんあるのだが…。

そんな中で、10月にアメリカのデラウェア大学で受けたN

O研修はNPOについて考える素材をたっぷり貰って有り難かった。アメリカ人と私たち日本人ではNPOについてイメージするものが全く違うのか、と実感をともなって理解できた。国の成り立ちから違うのだから、といってみれば当たり前のことなのだが…。アメリカでは民間非営利であれば、すべて同等にNPOに枠づけされる。それに比べて日本では何といろいろに分別されていることか。NPO法人には特定非営利とわざわざ断つてある所以だ。病院や博物館が多くボランティアで成り立

代表理事 横須賀 和江

っているのも、それまではキリスト教精神なのかなと漠然と思っていたのだが、同等なNPOだからこそ、ということもあるのかな、と思いはじめてきた。

NPOを日本の伝統や歴史の中でもう一度考えて考えてみたくなった。いつも接している生産農家の人たちの間にNPOを定着させるには、何が必要なのだろうか。村の歴史の中に自らのことは自らで決めて自らで行うという精神が本当になかったのだろうか。掘り起こしてみたいと思う。

■頼りがいのあるNPOセンターを目指して

今年（99年）の初め、私たちは、当センターが取り組む重点課題について、以下の4つを掲げていました。1.センターの法人化（特定非営利活動法人化）、2.仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営受託をめざす、3.9月18-19日のNPOフォーラム'99東北会議の仙台開催、4.さまざまなソフト事業のプログラム開発の4つです。

「センターの法人化」は、2月の設立総会で確認され、4月1日付で申請、6月21日認証、7月1日に登記完了して、特定非営利活動法人になりました。「仙台市市民活動サポートセンターの管理・運営」は、3月に公募、選考委員会による選考で

4月末に当センターに受託が決定、5月にスタッフを急募して、6月1日よりスタッフ出勤、6月29日には記念式典、翌30日から開館しました。時間的余裕のない出発を余儀なくされたので、現在、運営を続けながら細部の手直しをしているところです。幸い、多くの皆さんに利用していただき、親しみやすい施設運営を心がけています。「NPOフォーラム'99東北会議」は、約半年間の実行委員会による準備を経て、多くの皆さんの協力により、2日間で1000人を超す人々が全国から集まり、無事開催することができました。ご協力ありがとうございます。「プログラム開発」は、上記3つに労力の大半を費やしたために、自治体

代表理事 加藤 哲夫

職員向けのプログラム開発など一部を除いては不十分な取り組みに終わっています。

11月に理事合宿を行ない、その中で、アドボカシー（NPOの社会的認知をつくり、基盤整備をすすめる）と組織の基盤づくりの時期と位置付けていた、97年11月設立以来2年になる活動を総括し、今後3年程度の中期計画の立案をしました。

今まで、直接相談や関わりのできた方以外には、センターの姿が見えないという声もありましたが、サービスメニュー、サポートメニューの充実によって、頼りがいのあるNPOセンターになることをめざしていきたいと考えています。

せんだい・みやぎNPOセンターの2000年の事業について 「すがたの見えるNPOセンターになる」

● 3大事業と地道な事業で支えた9ヶ月

99年の当センターの3大事業は、「NPO法人化」、「仙台市市民活動サポートセンターの受託」、「NPOフォーラム'99東北会議の開催」でした。こういった大仕事を行ないながら、毎月の[センタードサロン][CCFサロン]を開催。さらには、仙台市環境局からの[ポイ捨てごみからまちづくりを考える]キャンペーンの企画・提案・実施といった事業委託、東北自治研究所からの公務員向けNPO研修、そのほか各地の青年会議所や自治体、企業、NPOからのNPO講座や講演会の仕事など、4月からこの12月まで仕事をして稼いでまいりました。

気がつけば、15ヶ月という長~い今年度もおり返し地点を過ぎておりました。そこで、理事会では残すところ6ヶ月の当センターの事業展開について、この9ヶ月の活動を自己評価しつつ検討することになり、先日1泊2日にわたる理事合宿を行ないました。それを踏まえて、今年最後の第5回理事会が12月17日に開催され、気持ちも新たに2000年に向けての当センターの方針が確認されました。そこで、会員の皆様にもご理解とご協力をいただきます上で、合宿と理事会で話し合われました方針をお伝えいたします。

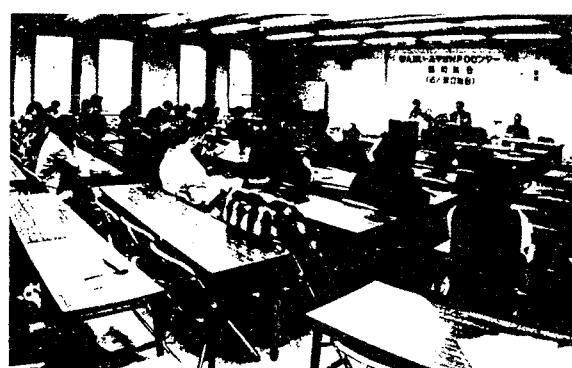
●新たな5つの事業の柱と新体制への転換

9ヶ月間の当センターの理事合宿での事業評価は、やや良好といったところでした。大事業を実施するため当センター自身の基盤整備が先延ばしになったことで、これからは地域のNPOへの直接支援など、サービス提供メニューの開発・提供が必要であることなどが議論されました。

今回の議論にあたっては、当センターの会員やその周辺に存在するNPOや企業、行政、個人を3つのマーケットに分けて、それぞれに向けてのサービス内容の違いや重なりを分析し、対策を考えました。そこから、5つの柱が見えてきました。

- 1、NPO向けのサービスメニューの充実。
- 2、行政対象のNPOへの啓蒙研修の実施。
- 3、企業との連携をはかるチャンネルづくり。
- 4、NPOの資金源の創出・研究。
- 5、自主事業の拡充。

この5つの柱ごとに、今回から12人の理事が必ず1つは担当することにしました。また、これらの柱はすでに動いている部会とも連動しますし、新たな部会として立ち上げたり、一休みしていた部会が再び活動することになります。



●企画委員の解散と企画スタッフボランティア大募集

この新たな体制を実施するにあたり、これまで事務局とともに当センターの事業を担っていた企画委員会は、一旦解散することになりました。そして、この5つの柱を中心に動き出す部会やワーキンググループごとに責任を持った会

員の参加の機会（企画スタッフボランティア）を作っていくことにしました。今現在の当センターで動いている事業で、お手伝いいただきたいものは、●センダードサロン部会(担当：石田・紅邑)●（企業フィナンスロビ一部会改め）CCCFサロン部会(担当：八木・紅邑)●NPO法制度部会(担当：黒澤・新川)の3つです。中でも、CCCFサロンでは、[地元企業の意識調査隊]がすでに活動を開始しており、現在も隊員募集中です。

このほか、仙台市外の農山漁村を対象とした地域コミュニティサポート事業(担当:兵藤、山田、横須賀)や、企業人への企画を絞った企業市民活動サポート事業(大滝、川村、木村、八木)、行政職員向けの啓蒙・研修事業(川村)、市民活動サポートセンター内のボランティアコーディネート事業(石田)や情報化サポート事業(黒澤)などがあげられました。さらに、●コミュニティFMのNPOプロジェクト(大滝・黒澤・紅邑)、コミ

ユニティファンド研究会(黒澤)、講師派遣会議(加藤・紅邑)、NPO法人化相談(加藤)なども、事業展開の1つとして検討されました。

これらの事業は、当センターの体制と利用者ニーズに合わせて、段階的に実施していくことになります。会員の皆様からもご協力いただきながら事業展開をしてまいりたいと思いますので、意欲あふれる方はどしどしご意見・ご提案を事務局までお寄せください。

このような話し合いの中から、今後はそれぞれの事業ごとに実績を作り、内外ともに[せんだい・みやぎNPOセンター]の姿がどういうものなのかを具体的な形にしていくことが必要であるということになり、「すがたの見えるNPOセンターになる」が、2000年に向けての当センター一理事会の合言葉になりました。会員の皆様も当センターのすがたとは何か、問い合わせながら当センターにご協力願います。 (紅邑晶子)

アメリカでは、理事の役割はお金を出す、お金を集める（資金調達）、知恵を出すの3つであると、ボインツ・オブ・ライト財団のモリスさんはおっしゃっていました。NPOにとつて、バランスのとれた理事会が理想であるということで、その意味は、「多種多様な理事がいるほど、社会ニーズへの対応

テラウチアNPO研究会・第三回

第1回 理事の役割

红色量子

しやすい」からだそうです。た、組織全体の方向付けをきる際も、自分の組織についてきちんと伝えられる役割があり、そのNPOの顔でもあること。中でも、専務理事は、自分たちのメッセージを内外に向かってきちんと伝えられる役割がある。また、組織の情報の中心にいることから、他の理事に情報をつなぐ電話交換手の役のようなものだとおしゃつていました。そこで、このようしなことを理事に理解してもらうための理解研修というものが事研修とあります。そこでは①理事への尊敬を表しつつ仕事をしてもらう②新情報を提供する③理事には役割を伝える④理事とNPOとの出会いの場を行うなどを行なうとしたとのこと。

NPOの二千年問題

NPO法施行から一年が経過し、全国では千を越すNPO法人が誕生し、本県でも、三十の団体が誕生するまでになっています。

しかし、NPOを支え発展させていくため、取り組むべき課題は山積みの状態のままです。その中で、NPO法を改正することも大きな課題の一つとなっています。

NPO法は、法人制度は創出したものの、法の中に税制優遇を盛り込んでいないこと

を認めた欠陥法として存在しています。(詳細は、みんな

九九年八月三十一日号参照)

本センターでは、二千年を法改正への重点期間とし、様々な行動を企画しています。

その一環として、国への意見書の提出を求める要請書を

県議会に提出し、十二月議会において採択、「民間非営利団体(NPO)の支援のための税制優遇措置などについて」

として、総理大臣ほか関係機関に提出されました。

NPO法人の発展のためには、「NPO法施行一周年記念シンポジウム」を開催しました。

■国会が宮城にやつてきた

十二月十二日には、「NPO

法施行一周年記念シンポジウム」NPO法人の発展のためには、「NPO法を招き税制優遇制度の創出に向けたシンポジウムを開催しました。

県選出の国会議員(十六名)に趣意書を送り、当日は、愛知男氏、岡崎トミ子氏、桜井充氏、市川一朗氏(代理)の出席をいただきました。な

お、井上義久氏、亀谷博昭氏、中野正志氏、三塚博氏からは、趣旨賛同する旨、メッセージをお寄せいただきました。

国会が宮城にやつてきました。今更、首都機能移転でもなし。建物が来た訳ではありません。現在、愛知、岡崎の両氏は、それ自民党と民主党のN

P.O委員長の職にあり、NPO法改正に向けた各党案を取りまとめる責任者となっています。

シンポジウムでは、両氏に壇上に並んでいただき、各党案の内容を会場参加者とともに議論しました。「奇しくも政策論争ではありますが、このような企

画が行えるのは、全国でも宮城・仙台の地のみです。国会周辺でもこの二人を並べるのは至難です」(松原氏談)

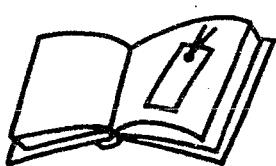
特に、今後の争点となりそうなものは、客観的な認定基準づけの金額や基礎控除の考え方、補助金など)の構成がある計算式に掛け、その結果から、市民や企業に広く浅く支えられるか、否かを評価することが検討されています(特定個人や企業が資金的に深く関わる団体は、認定から除外される)。しかし、自民党案では更に、市町村長からの推薦を条件としている行政策に反対するNPOへの推薦を市町村長が行うのかは、疑問であり、今後の争点となるでしょう。

■各党案の内容は?

一、寄付金に対する免税措置の創出(個人の寄付金を所得控除、寄付企業の寄付金を損金算入可とする)

二、収益事業に関するみなし寄付金制度の創設(NPOが課税事業で上げた収益を、NPOの本来事業である非営利活動に寄付したものとみなして非課税とする)

三、上記の特典を得られる新た



な法人制度の整備、その客観的な認定基準、認定機関の整備

以上、三項目が大きなメニューであり、各党のメニューに大きな相違はない。但し、所得控

除の金額や基礎控除の考え方、補助金など)の構成がある計算式に掛け、その結果から、市民や企業に広く浅く支えられるか、否かを評価することが検討されています(特定個人や企業が資金的に深く関わる団体は、認定から除外される)。しかし、自民党案では更に、市町

村長からの推薦を条件としている行政策に反対するNPOへの推薦を市町村長が行うのかは、疑問であり、今後の争点となるでしょう。

■今後の取り組み

本センターでは、二千年をNPO法改正の重点期間として、愛知氏、岡崎氏との定期的な勉強会、節目のシンポジウムなどに取り組み、最も国会に近い「地方からの機運づくり」を行って参ります。

**官設民営
「仙台市市民活動サポートセンター」
で働いた半年**

半年。そう、まだ半年。しかし、スタッフにとっては、すでに1年、2年の時間が経過したようにも思えるのです。

6月30日、全国のサポートセンター関係者が「伝説」として語り継ぐようになった「超短期間」の準備作業を経て、「仙台市市民活動サポートセンター」(SSC)は無事、開館を迎えることができました。以来、半年で1万人を超える市民の方にご利用いただき、多くの出会いを重ねながら、市民センターのエンパワーメントのため努力を続けてきました。ともすると、マスコミの報道やNPOフォーラム'99東北会議の開催を通じ、「官民協働のモデル」として華やかなイメージを持たれる当センターですが、しかし、その現場の実態はと言えば、まさに「試行錯誤」の連続、市との相談や交渉を積み重ねながらの、地道な努力を繰り返す日々でした。汗と涙、そして忍耐に彩られた演歌調の(！？)舞台裏。市民としての自分と、公共施設の管理受託者としての自分と、時には、相反する立場のせめぎ合いに悩みながら、窓口対応を果たさねばならないこともありました。

NPOの発展を通じ、今、市民が草の根から

目指している「官から民へのパワーシフト」は、一方の側面において、

官が一元的に担ってきた「公共」と呼ばれる世界の再編を意味します。「官の支配領域」と、それに対して広がりを求める始めた「市民の領域」。「官設民営」のサポートセンターは、いわばその2つの「公共」をめぐる領域の衝突地点として、最前線に位置するものです。だからこそ、市民センターを第3の力として発展させるために、まず、その2者の行方を確固としたビジョンの中で整理し、具体的に支援することが、私たちに求められています。しかし、それが思われているほど簡単ではない、と言うことを現場の実感として得た半年でもあったのです。

出来ることから、すこしづつ。利用者の応援を得ながら、市民が気軽に立ち寄り、集まり、動き出すために、ささやかでも着実な前進を重ねながら、ミレニアムに生まれた新しい市民の広場＝仙台市市民活動サポートセンターを、より充実した「新しい公共」施設にしていきたいと考えています。

(工藤 寛之)

が活いい出同のも多も勘Nてと円の34集きN100つ画に会Pが託化2あた寄府先出動てう込、せじ資と々い違Pもいがう億まなP人た期も自O開に課に關主に目する指N緊急評、政人PとIでとつ、し向17こ単半とた待関上参ながは対さる環境にN示Pに、も雇用対価け主もOいブ、雇よ誤参予全にのうたつが数数でく算N部つ予17予だも者多者とな全るた明N生活県しも大O事業事はNれなといとN企用誤解加算部つ予17予だも者とがい算億算、て大のもあ、的明N会O生事活、Pば期う委員会文月も冷を政託

宮城県の雇用対策資金による NPOへの業務委託について

体策や的平の積が資Nに成で極増金Pは12は姿えをO支年な勢そ積調援度いとばべてう極査セをか評、一はて的なん見。価加藤にどたるちしNス不哲夫。う雇づ自用く全に、いのを、



11百託のの宮城県そんなりふるう。月89され、うち55事業実施ける宮城県の積極姿勢。12と評価された。日本経済新聞では、「光の実施平成203811年2千に事年成」



■地元企業のNPO意識調査隊

みなさんこんにちは！私たちの目的は、地元企業に社会貢献活動やNPOについての意識をアンケート・対面調査することを通じて、地元企業の皆さんに社会貢献活動の重要性とNPOの存在を知ってもらおうということです。そして、その結果を報告書としてまとめ、今後の企業とNPOの良い関係づくりに役立てたいと思っています。

今までの活動は、宮城県の

「NPO活動企画コンペ」に参加し、見事活動資金20万円をゲット！現在はアンケート調査票、調査企業の選定リストを作成中です。年明けにはアンケート調査、対面調査を実行に移し、3月末に報告書をまとめ、県内の皆さんに広くその結果をお知らせしたいと思っています。

今後の調査隊の活動に乞うご期待！そして、隊員は随時大募集です！！（高野州永）

■NPOと企業のパートナーシップによるインターンシップ

学生NPOアイセックは世界中で学生の海外企業研修(インターンシップ)を運営しております。この度アエル8Fのベンチャー企業インターサポートとのパートナーシップのもと、イタリア学生のビジネスインターンシップを行なうこ

とになりました。1999年12月20日から2000年2月19日までイタリア人研修生マルコが企業の一員としてインターネートでイタリアに関するセミナーを企画・運営し、ビジネスや異文化を学びます。企業とNPOが新しい形でパートナーシップを組んで、広い視野をもって地域社会の問題を解決できる人材を育てていこうというのが今回のVisionです。

インターンシップも開始し、マルコも積極的に取り組んでいますが、仙台が国際都市として外国人を受け入れるのにまだ未熟な点が多く、この事業によって仙台の国際化に貢献できるのではないかと考えております。2000年の2月19日に報告会を行なう予定ですのでぜひ参加してください。（アイセック 沢田愛）

振り返ると、仙台YMCAの「働く女性の英会話」グループへの出席から、NPOへ足を踏み込んだように思えます。東南アジアからの女性移民労働者が、日本のクラブなどで劣悪な状況で働いている実情を知りました。それが契機で、在仙外国人支援のグループ立ち上げに没頭した時期もありました。また、日本YMCA主催のプログラムでリウルへ行き、韓国の青年メンバーとの触れ合いの中

で、言葉に支えられて、自分のできることから、少しでも続けるNPOの現場で実践していかればと思つています。

私のNPO体験記

NPOセンタースタッフが感じ・体験した様々なNPOについてレポートします。

vol.2 菅野郁美

で、「国際関係」とは、国家レベルではなく、一人一人が出会うことから始まるんだな…と実感したこともあります。この思いから、仙台YMCAで5年間「日韓交流」のプログラム企画を継続することになりました。

真の意味での「国際交流」を考える時、本音を語り合える信頼関係の構築、多様性の受容、他者との境界線をなくしていく努力、が基本となります。滞日・在日東ティモールやパレスチナ、難民等、課題を数え上げたらきりがなく、ある活動を選び関わる際、私に何がが

■ NPOのための経理・会員管理ソフト研究会

実際のNPOの現場でどのように経理や会員管理が行われ、どんな問題を抱えているのか、また既存のソフト情報等を集め取りまとめてみたいと思っています。

企業の経理や顧客管理と異なりNPOのそれは、勘定科目や会費制などの点で一種独特です。NPOの規模にもよりますが、この分野で苦労しているところが案外多いのではないだろうか、というのがきっかけとなり、そのソフトについて考えてみようということになりました。一口に経理と会員管理といっても、どこにフォーカスを当てるのか明確にしていくことが先決ということになりました。

それにはまず実態がどうなつていて、どんなニーズが現場にあり、それに対応するどんなソフト（広い意味での道具と技術）があるのかを調べてみました。

情報収集に当たり、主なNPOに声掛けをして情報交換の場づくりを行い、同時に既存ソフトの紹介や課題も検討していきたいと思っています。

（鈴木俊博）

■預託システム活用研究会 略称 ヨタケン

ヨタケンとは宮城県社会福祉協議会（県社協）のボランティアセンターの中にあるハートフルバンクを市民活動団体も上手に活用できないかと、日夜（？）研究しているグループで、「CILたすけっと」という市民活動団体のメンバーを中心になっています。

市民活動団体が困っている資金やモノ、さらには人さえも、企業から県社協のハ

トフルバンクを通して多くの団体に供給されていくシステムができないかということ、ヨタケンが生まれたのです。

今は、企業や市民活動団体にもっとハートフルバンクについて知ってもらおうとアンケートを実施したり、県社協と協力してわかりやすいリーフレットも作成しようと考えています。

興味のある方は、是非ご参加を。

（杉山裕信）

99年のセンタードサロンは、5月から「NPOができるサポート」をテーマに開催してきました。

5月の子どもに続き、障がい者、県内在住外国人、高齢者、食・農、女性、そして12月にち地域をテーマに実施しました。どの回も、行政や企業でなくNPOだからこそ出来ることや、その分野での課題とその解決方法が議論され、また、テーマに興味を持つ市民との交流の場にもなりました。

参加者の多少に関わらず常に中身の濃い議論をざくばらんに行っているのがセンタードサロンの魅力です。2000年第1回開催は1月25日火曜日です。「持ちつ持たれつ新年会」と題し、交流会を実施します。ぜひ、ご出席ください。

2000年からは、当センター理事の石田、事務局長の紅邑、スタッフの安国、遠藤がサロン担当として毎回出席する予定です。これからセンタードサロンもますます目が離せません！

（遠藤 智栄）



すの良い事務所になつております。お陰様で日に日に使い勝手（青木ユカリ）

●（株）藤崎快適生活研究所
さんより
お店の改装のため処分する備品からチラシラックや棚

●（社福）宮城県社会福祉協議会
セントラルさんより
内部整理により不用になつた書棚とラック

●（株）岡元ビル
さんより
それにあります。そして、この事務所スペー

スのお話を下さつた（株）岡元ビルさんへ感謝申し上げ

当NPOセンターが岡元ビルに引越してから、5ヶ月になります。実はこの間に、備品などの提供してくださった方々がいらっしゃいますので、改めて紹介をさせていただきます。

物品などご提供ありがとうございます。

東北リレートーク

福島県 郡山市
ハートネットふくしま

ハートネットふくしまは、阪神大震災の時に障がい者や高齢者の支援するために結成され、7ヶ月間述べ千人のボランティアを継続して派遣してきました。

その中で学んだことは、ネットワークが最後のライフラインとなり、つらい思いをする人が減少するということです。それ以来、県内のネットワーク作りと、全国の仲間の輪を広げることに努力してきました。現在1400通の機関紙を発送しています。

そのネットワークが、一昨年の8.27水害で本当にライフラインとなって、全国から多くの支援を寄せてくれたのです。

今、かつての被災地にはボランティアの姿はありませんが、彼らの思いが残っています。そこで、土砂のかぶった田んぼで一年間米作り支援の事業を行ったところ、遠くのボランティアがまた戻ってきました。収穫した米の

購入を呼びかけば、新しい消費者が生まれました。このことに見られるように、災害時のボランティアの活動は、工夫によって、その後の町作りの新しい支援者を得る可能性を示しています。

今年は世界各地、日本でも大きな災害が続きました。ハートネットも広島県呉市、岩手県軽米町の水害にスタッフを派遣しました。これらの地で新しい町作りが始まればと思います。このような災害支援とは別に毎年2月に奥会津の只見町、金山町、昭和村で雪下ろし体験ボランティアを企画して、やはり全国からボランティアが集まって来ます。

雪国では年間の何ヶ月かは自然災害状態なのです。特に老人世帯は支援が必要になります。ここからも新たな町おこしの支援ができないでしょうか。多くのみなさんの参加をお待ちしています。

(吉田公男)

ハートネットふくしま

〒963-8025 福島県郡山市桑野1-22-11
サコービル3階4号
TEL:0249-91-1701
FAX:0249-91-1702

NPOで働く人は、仕事をして業務をこなしつつ、つねに「私」として自己実現をめざしていくことがあります。だからこそ仕事の部分とボランタリーナ部分の線引きが難しいと感じています。NPOで働く心構えを考える上で、ぜひと読みたい一冊です。
(中津涼子)

NPOで働くといふことは違う。企業に就職するることは違う。そう思つて

この本では「“公私融合”の勤労・仕事術」という新しい考え方・働き方・生き方が提案されています。“公私融合”とは、公（社会・世間・企業）と私（個人）がそれぞれに独立しながらも、必要に応じて融合し互いに補い合うことをいうようです。

NPOで働く人は、仕事をして業務をこなしつつ、つねに「私」として自己実現をめざしていくことがあります。だからこそ仕事の部分とボランタリーナ部分の線引きが難しいと感じています。NPOで働く心構えを考える上で、ぜひと読みたい一冊です。
(中津涼子)

BOOK

「仕事術」

岩波新書 森清著
660円

事務局活動報告 10/23~12/17

活動
報告

■センター・事務局関連

- ・ ゆるる編集作業 (10/23・25-11/18・19)
- ・ サポートセンタースタッフ全体ミーティング (10/27-11/4・10-17・24-12/1・8-15)
- ・ 事務局会議 (10/28-11/5・10-24-12/3)
- ・ みんみん発送 (11/2)
- ・ NPOフォーラム'99東北会議 報告書打ち合わせ (11/8-11・18 紅色・遠藤)
- ・ 健康診断 (11/9-12)
- ・ 理事懇親会 (11/10 加藤・黒澤・新川・紅色・横須賀)
- ・ 事業計画会議 (11/13 大滝・加藤・黒澤・紅色・山田)
- ・ CCFサロン／東北エニコム (11/17-12/14 紅色・遠藤)
- ・ 地元企業のNPO意識調査打ち合わせ (11/22-12/11 紅色・八木)
- ・ センダードサロン「NPOができる女性へのサポート」／センダードサロン部会 (11/25 加藤・遠藤)
- ・ みんみん編集会議 (11/25 遠藤・工藤・紅色)
- ・ 理事合宿／ホテル奥仙台 (11/27-28 石田・加藤・川村・木村・黒澤・新川・紅色・横須賀)
- ・ センダードサロン打ち合わせ (12/9 石田・紅色・遠藤・安国)
- ・ NPO法施行1周年記念シンポジウム「NPO法人の発展のために」／共催：NPO／NGOに関する税・法人制度改革連絡会 (12/12 黒澤・紅色)
- ・ 監査 (12/14 長谷川・加藤)
- ・ 特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター第5回理事会 (12/17)

■NPO関連他

- ・ 仙台NPO研究会 (10/26-11/25-12/16 黒澤)
- ・ NPOフォーラム'99東北会議 第6回実行委員会 (10/29)
- ・ 北上市青年会議所講演 (10/30加藤)
- ・ 全国まち美化シンポジウム (11/1-2 紅色・加藤)
- ・ みやぎ情報ネットワーキンググループ準備会 (11/2 紅色)
- ・ 「東北における市民公益活動組織の実態と今後の展開に関する研究」打ち合わせ／東北開発研究センター (11/4-16・24-12/6 紅色・遠藤・工藤・松尾)
- ・ NPOリーダー研修／宮城県社会福祉協議会 (11/7 加藤)
- ・ 「自治体とNPOのパートナーシップをつくる」連続セミナー 第二弾 NPOセンターの現状と課題 主催：NPO研修・情報センター シーズ=市民活動を支える制度をつくる会 (11/8 加藤)
- ・ M i M i n e t 例会 (11/10-18 紅色)
- ・ 四季塾／宮崎 (11/21加藤)
- ・ 「どうすっぴ福島」講演 (11/21 紅色)
- ・ 有機生産農業組合／鹿児島 (11/22 加藤)
- ・ 気仙沼まちづくり 講演 (11/30加藤)
- ・ おおさきNPO情報センター発会式、記念フォーラム 講演 (11/30 紅色)
- ・ 中小企業団体中央会セミナー (12/4 遠藤)
- ・ 情報教育センター・トレーナー研修／(株)仙台ソフトウェアセンター (12/4 安国・青木)
- ・ 桃生社鹿地方町村議会議長会 木村さん 来訪 (12/13 紅色)
- ・ 高齢者福祉NPO経営支援事業運営委員会／社会福祉法人東北福祉会 (12/17 紅色)

■自治体関連

- ・ 環境学習リーダー養成講座／市 環境局環境計画課 (10/23加藤・遠藤)
- ・ 「平成12年度政策要望に答える会」／自民党 (10/24加藤)
- ・ 青森県ボランティアネットワーク事業研修 (加藤) 青森市 (25日) むつ市 (26日) 弘前市 (27日) 八戸市 (28日)
- ・ 仙台市職員研修「まちづくり基礎講座」 (10/26-27 黒澤・紅色)
- ・ 市 環境局廃棄物管理課打ち合わせ (10/29 加藤・紅色・遠藤)
- ・ 市民活動フォーラム打ち合わせ (10/29・11/11-12/2-6 紅色)

- ・ NPO活動助成対象団体ヒアリング／県 環境生活部生活・文化課 (10/29紅色)
- ・ 中心市街地活性化検討委員会／市 企画局企画調整課 (10/29紅色)
- ・ みやぎ「NPO活動企画コンペ」ヒアリング／県 環境生活部生活・文化課 (10/29 紅色・CCFサロン、地元企業のNPO意識調査隊)
- ・ 中心市街地活性化検討委員会／市 企画局企画調整課 (10/29紅色)
- ・ 東北自治体学会 (11/7 紅色)
- ・ 市 リサイクル推進課 打ち合わせ (11/17 加藤・安国)
- ・ 民間非営利活動促進委員会／県 環境生活部生活・文化課 (11/18 紅色)
- ・ 宮城県大規模事業評価委員会／県 企画部政策課 (11/19・12/15 紅色)
- ・ 市民活動フォーラム実行委員会／市 地域振興課 (11/25・29 加藤)
- ・ 仙台市教育ビジョン検討委員会／市 教育委員会 (11/26 加藤)
- ・ 仙台都市総合研究機構「SURFサロン」講演 (11/29 紅色)
- ・ NPO事業委託に関する説明会／県 環境生活部生活・文化課 (11/26 紅色)
- ・ 中心市街地活性化シンポジウム／市 企画局企画調整課 (11/30紅色)
- ・ 「知事と語ろう “トワイライトフォーラム”」／県 総務部広報課 (12/14 加藤)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター共同事務室代表者会議 (12/15 加藤)

■取材・ヒアリング・相談

- ・ 県 市町村課 武者さん、桜井さん来訪 (10/25紅色)
- ・ 長崎県県民環境部 濱田さん来訪 (10/27)
- ・ グループ根っこ 谷田部さん来訪 (10/27)
- ・ 高知県高知市民会議 山崎さん来訪 (10/28)
- ・ 熊本県環境生活部 本田さん来訪 (10/28)
- ・ テルウェル法人化相談 (10/29 加藤・青木)
- ・ 大崎広域行政事務組合 視察 (11名様) (11/1 加藤)
- ・ 環境パートナーシップオフィス 川村さん来訪 (11/2)
- ・ 気仙沼市役所 山内さん来訪 (11/2)
- ・ 和歌山県議会視察 (14名様) (11/5 加藤)
- ・ オリコ 福田さん、勝木さん来訪 (11/5 加藤)
- ・ ソキウスせんだい取材 (11/8 紅色)
- ・ 法政大学 田村さん来訪 (11/9)
- ・ リビング新聞社 柳さん取材 (11/11)
- ・ 仙台商工会議所 佐藤さん、大槻さん来訪 (11/12 紅色)
- ・ 青森 宮越さん来訪 (11/15)
- ・ アイセック 沢田さん来訪 (11/16 紅色)
- ・ 名取市議員 上原さん、佐々木さん、高橋さん、ヒアリング (11/17 紅色)
- ・ 藤井ゼミヒアリング (11/26 加藤)
- ・ 建設局公園緑地部計画課 深水さん ヒアリング (11/29 加藤)
- ・ 社会福祉法人にんじんの会 石川治江さん 来訪 (11/29 加藤)
- ・ シンクタンクふくしま 佐藤さん (12/2)
- ・ 特養ホームを良くする市民の会 佐々木さん来訪 (12/2)
- ・ クリーアップ蒲生 伊藤さん打ち合わせ (12/7 加藤・紅色・遠藤)
- ・ 塩竈市体育協会 成澤さん、小笠原さん (12/8 加藤)
- ・ 仙台青年会議所 八矢さん来訪 (12/10 紅色)
- ・ 経団連1%クラブ 青木さん、大熊さん 取材 (12/15 石田・川村)

サポート・ご協力 ありがとうございます。

●平成11年度会員(新規)

渡辺雅昭、(有)シャローム、幕田晶子、遊佐さゆり、杜の伝言板ゆるる

●平成11年度会員(継続)

今野美保子、小嶋淳一、天江文夫、吉田洋子、グループゆう、仙台・水の文化史研究会、佐々木亨、仙台生ごみリサイクルネットワーク、特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラム、仙台市交通労働組合、仙台インターネット推進研究会、あきう6000、協同組合プランニングネットワーク東北、内海裕一、今田忠、(社)仙台青年会議所、三好彰、上田良光、白石・みやぎ環境を考える会、市民フォーラム21・NPOセンター、仙台都市総合研究機構、仙台ありがとうの会、フリースクール森遊、須藤達也、木須八重子、江戸行男、日本ホリスティック医学協会、佐藤元吾

●事務局ボランティア

内藤志保、高橋香、緒方布美子、本郷正武、関谷忠夫、一宮英生、長澤美代子、村上鮎美、登坂宗太

順不同、敬称略、11/1~12/17

寄贈報告

(株)資生堂リースさんより、ノートブックパソコン(中古)が宮城県内の当センターNPO正会員14団体に寄贈されました。各団体の業務で活躍することでしょう。

ご提供、本当にありがとうございました。

●サポート：株式会社資生堂

●仲介組織：日本NPOセンター
せんだい・みやぎNPOセンター

■当センターでは、物品などの仲介をこれからも積極的に行う予定です。企業、NPO、市民の方々でご提供していただける場合は、お気軽にご連絡下さいませ。



特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F
tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@jca.ax.apc.org

営業時間 9:30~18:30、土日祝日休み

催事

●CCFサロン

テーマ：アクションプラン報告

日時：1月18日(火) 18時30分～

場所：東北エニコム 参加費：500円

●センダードサロン

テーマ：持ちつ持たれつ新年会

日時：1月25日(火) 19時～ 参加費：500円

場所：市民活動サポートセンター 研修室1

飲み物か食べ物を一人1品お持ち寄り下さい。

●NPO法人化講座

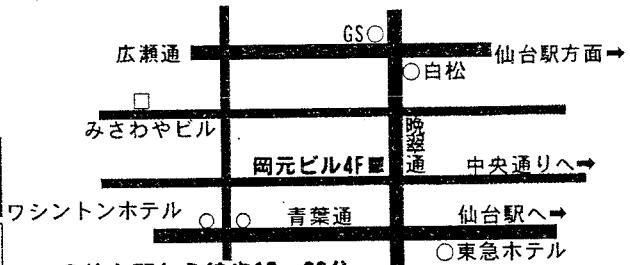
日時：1月23日(日) 9時30分～12時

参加費：1000円 定員：20名

場所：市民活動サポートセンター 研修室2

●第2回市民活動フォーラムせんだい

日時：1月21～23日 会場：市民活動サポートセンター、エル・パーク仙台 問合せ：別紙チラシ参照



●仙台駅から徒歩15～20分

※岡元ビル1Fに有料駐車場あり
8:30～17:00 定休日 各週土曜、日曜日

会員の皆様、1999年も1年間ご支援、ご協力ありがとうございました。

年越しをはさんで、Y2K(2000年)問題があります。それぞれに準備をなさって、笑顔で新年を迎えるものです。

どうか、2000年もよろしくお願ひいたします。

せんだい・みやぎNPOセンター 一同

みんみん編集後記

□2000年。感謝・ゆとり・勢い・智恵・想像力。そしてやることを選ぶ。(紅邑) □風邪をひいてしまいました。声はまるで「ルイ・アームストロング」状態。健康第一でミレニアムを突っ走ろう。(遠藤) □人生初の「北国の冬」。寒さに負けない元気な市民活動のために頑張ります!(工藤) ■みんみん編集部、2000年もよろしくお願ひいたします。謹賀新年。